

千住宿の商家の趣を残す住宅

所在地：千住 4-28-1（外観のみ公開）



横山家住宅

横山家住宅は、江戸時代後期の建造物で、昭和11年(1936)に改修が行われていますが、宿場町だった千住の名残を今に伝えています。

間口が9間(約16メートル)、奥行が15間(約27メートル)あり、大きくてどっしりとした瓦葺となっています。敷地は、間口が13間(約23・5メートル)、奥行が56間(約102メートル)もあり、鰻の寝床のように長くなっています。

横山家は、江戸時代から続く富裕な商家で、屋号を「松屋」といい、今でいう再生紙を取り扱う地漉紙問屋でした。

横山家住宅は戸口が街道から一段下がっており、上にいる客を下から迎える形となっています。これは、お客様をお迎えする心がけのあらわれといえます。

文化財豆知識

横山家住宅と彰義隊

慶応3年(1867)10月、15代将軍徳川慶喜は政権を朝廷に返上し(大政奉還)、12月には王政復古の号令が発せられ新政府が樹立されます。

彰義隊は、旧幕臣を中心に結成された集団で、慶応4年5月に徳川家の菩提寺である上野の寛永寺に立てこもりましたが、新政府軍との戦いに敗れました。横山家住宅の柱には、上野から敗走してきた彰義隊士が切りつけた傷痕が残っており、幕末の動乱に巻き込まれた千住の様子を伝えています。



刀傷(非公開)